

令和6年7月22日

泉大津市長 南出 賢一 様

泉大津市総合計画審議会
会長 臼谷 喜世彦

第5次泉大津市総合計画（案）について（中間答申）

令和6年4月26日付け泉大政第11号で諮問のあった第5次泉大津市総合計画（案）について、当審議会において3回に亘り慎重に審議した結果、現時点での考え方を下記のとおり示します。

記

第5次泉大津市総合計画は、将来における泉大津市のあるべき姿と進むべき方向を示す、基本的な指針であるとともに、市民と行政が市の将来像を共有し、協働・連携によるまちづくりを進めていくために、極めて重要であると認識している。

本審議会として、以下の点について特に評価するものである。

- 本計画の策定に向けた市民ワークショップでは、多様な主体が議論を重ねており、まちづくりに関わる主体が共創した過程は十分に評価できるものである。
- 基本構想は、共創の場によって生み出されたものであり、基本計画は、行政において議論を重ねてボトムアップにより出てきたもので、全体の構成については評価できるものである。

その上で、次の点に留意されたい。

- 本審議会でも出された別紙の主な個別意見については、既に第5次泉大津市総合計画（案）に反映されたものもあるが、引き続き開催する審議会の議論は、行政内部においても十分に精査の上、真摯な検討をお願いしたい。

最後に、引き続き開催する審議会においては、本中間答申を踏まえ、第5次泉大津市総合計画（案）が10年後の本市の将来像を実現するためにふさわしい計画となるよう、最終答申に向けて、審議を重ねて参ります。

以上

審議会における主な個別意見

－1. 総論・基本構想－

○泉大津市の特性について

- ・泉大津市の特性に関して様々な視点が示されているが、総合計画全般において、泉大津市の地理的条件、歴史的背景、魅力等、「泉大津市らしさ」を踏まえた内容を取り入れ、より市民に伝わりやすく共感が得やすくなるよう表現されたい。

○広域連携について

- ・政策を検討するにあたっては、人口減少、高齢化の問題を大前提としておく必要があることから、個々の論点を考える上でも広域連携の視点を取り入れていただきたい。

○住みやすいまちについて

- ・外国人や若者を含め、多種多様な出会いや繋がりによって、住みやすく、魅力に感じるまちづくりを進めていただきたい。

○若い世代の活躍について

- ・人口減少・少子高齢化が進む中、泉大津市が維持又は発展していくためには、若い世代の地域活躍が不可欠である。若い世代のまちづくり参画や転入促進を図られたい。

－2. 基本計画－

○基本計画全般について

- ・基本構想における「泉大津市の現状」を踏まえ、「まちづくりの基本理念」や「まちづくりの視点」に沿った内容となるようあらためて検討されたい。

○指標の設定について

- ・基本目標や個別目標の達成に向けて計画を実施していくにあたり、どのようにして達成に近づくかを示し、評価の対象となる指標に関して、見直されたい。見直しにあたっては、実際に取り組む現場の方針となり得る分かりやすい指標となっているか、数値の改善によって取組の効果が示せているか、個別目標の方向性や現況と課題との齟齬や飛躍がないか、改めて確認されたい。

○基本目標1「みんなが互いに繋がり、理解し、共感しあうことで新たな刺激が生まれるまち」について

- ・指標「デジタル推進に向けた取組件数」がなぜ「多種多様な主体との協働によるまち

づくり」に繋がるのか、表現されたい。また、市民活動の活性化に繋がるような実効性のあるDXとなるよう留意されたい。

- ・指標「男女共同参画交流サロン（にんじんサロン）SNS登録者数」に関して、登録者の増加が「個性や能力が発揮できるまち」に繋がるか不明瞭であるため、検討されたい。
- ・「小中学校における外国語学習やALTとの学習」は、「グローバル社会において、活躍できる人財を育成」することにおいて非常に重要な取組であるため、指標として設定されたい。

基本目標2「主体的に学び、生涯にわたって学びの環境を自由に選ぶことで成長し続けるまち」について

- ・指標「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」は、各種取組みの成果を示すものとして適正であるか検討されたい。特に中学校においては各校の特色があるため、留意されたい。
- ・指標「全国学力・学習状況調査対全国比」の目標値が高く、教育現場の状況を踏まえ、より現実的な数値に変更されたい。
- ・基本構想総論「泉大津市の教育と文化」に記載のオーガニック食材の給食使用に関して、基本計画個別目標においても連動した表現とし、その特徴を反映されたい。
- ・指標「市民の学びの場所」に関して、場所の整備ではなく、学び自体が活性化されている必要があるため、活動団体数などの学びの活性化が分かる指標を設定されたい。また、学びの成果を示す機会に関しても留意されたい。
- ・指標「週に1日以上、運動やスポーツをしている市民の割合」に関して、理想は3日以上と考えられるため留意されたい。また、スポーツの多様性を鑑み、指標「スポーツイベントの参加者数」に関して、特定のイベントの参加者だけでなく、イベントの種類や実施主体数等を指標とされたい。

基本目標3「みんなが生き生きと、心豊かに健やかに暮らせるまち」について

- ・今後加速する少子高齢化や生産年齢人口の減少によって、認知症高齢者や身寄りのない高齢者への支援と共に、活力ある高齢者の社会参画などが重要となるため、先を見据えた計画を立てられたい。
- ・自分らしい暮らしには、「自身が行きたい時に、行きたい場所に行ける」ことも重要であるが、移動支援に関する社会的資源の枯渇が問題になりつつある。先を見据え、移動に関する支援について検討されたい。
- ・指標「救急搬送件数」に関して、救急搬送件数の増加が医療体制の充実に繋がるとは限らず、より適正な救急搬送であったかを表す指標等を再考し、設定されたい。

基本目標4「安全・安心を一人ひとりが考え、みんなでつくりあげるまち」について

- ・災害が発生した場合の情報伝達に関して、平常時から積極的に周知されたい。また、地域コミュニティに災害対応の担い手がいなくなる昼間に発災した場合どのように行動するのか、仕組み構築に取り組まれない。また、自主防災組織の担い手不足を解消するため、小中学校との共創に力を入れられたい。

基本目標5「みんなが住みよい環境が整っているまち」について

- ・重要なライフラインの一つである水道に関して民営化・広域化の動きがあるものの、災害時などでも適切に対応できるよう取り組まれない。

基本目標6「地域資源を活かしたにぎわいが生まれ、再生、発展するまち」について

- ・SNSの拡散力を活用することは必要であるが、フォロワーの増加だけでなく、地域に根差した文化や伝統産業に磨きをかけ、魅力向上にも力を入れられたい。

基本目標7「新たな力を取り入れ、柔軟にアップグレードし続けるまち」について

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）は利便性を高める手段ではあるが、デジタル機器を苦手とする高齢者に対する配慮や丁寧な説明を心がけられたい。また、「個別目標の方向性名」を「利便性の高いサービス」に変更されたい。

以上